

## 塘研究室現地調査報告

6月18日と22日に猪苗代湖にて現地調査を実施しました。猪苗代湖北岸に今年開所された猪苗代水環境センターで、7月30日に親子15組対象の環境学習会（底生動物を用いた水質調査の方法解説と実践）の講師を塘が担当しますが、22日の調査はその時に野外活動を行う場所の下見も兼ねています。

猪苗代湖の底生動物は今年度から調査し始めましたが、近くに流入河川がある場所だけでなく、流出河川しかない場所でも湖岸付近にかなりの数の流水性種が生息することに驚かされました。例えば、北岸の翁島付近（流出河川の日橋川から500m以上離れた場所）では流水性ゲンゴロウ類であるモンキマメゲンゴロウが夥しい数（数mの範囲に100個体以上）見られました。その他、コオニヤンマ、フタツメカワゲラ属、オナガサナエ、ヒメシロカゲロウ属の一種CDなどの流水性種が分布します。裏磐梯地域の松原湖や曾原湖にも分布しているトウヨウモンカゲロウが猪苗代湖にも広く分布しているようです。北岸や南部の鬼沼では羽化が始まりました。ただし、底質が泥質や砂質ではない場所にはいません。北岸のヒシの葉にはジュンサイハムシがおり、葉をかなり食害していますが、南部のヒシにはいないのが不思議です（代わりにヒシの葉上にはイネネクイハムシがたくさん見られます）。外来種であるフロリダマミズヨコエビは北岸では普通に見られ、南部の鬼沼でも確認しました。一方、南部の小倉沢付近は底質が礫質のためか分布していません。近くに流入河川がある小倉沢付近にはタニガワカゲロウ属、フタツメカワゲラ属などの流水性種がありますが、種数・個体数は非常に少なく、スジエビばかりが目立ちました。今度も月に1回、3ヶ所を目標に、猪苗代湖の底生動物を調査していきたいと考えています。



トウヨウモンカゲロウ幼虫



鬼沼のハネナシアメンボ



三城瀧付近のヒシ葉上のジュンサイハムシ。ヒシは湖岸から離れた場所に生える



鬼沼のヒシ葉上のイネネクイハムシ



鬼沼のモノサシトンボ